

支える仕事、角藤の力。

今年3月、東日本を襲った大地震と大津波、それに続く原発事故は被災地域に甚大な被害をもたらしました。本格的な復興はこれからですが、私たちは社会資本の整備や都市機能の再生に携わる者として、持てる力を尽くし貢献していきたいと思います。

角藤は道路・港湾河川・橋梁など生活基盤となる土木工事を手がけています。

例えば、数年前に長野県内で大型台風により河川沿いの国道が数百㎡にわたって流され、何万㎡という土砂が流出し、復旧作業ができない状況の中、当社に災害復旧の要請がありました。重要な幹線道路であり、迅速な交通再開が求められる中、昼夜兼行で130m以上の仮橋を架設し、その後の本格的な復興・整備を行いました。

このように土木工事は市民生活を維持する必要不可欠な分野です。

また、住みやすい都市づくりに建設事業は不可欠です。近年、箱もの公共事業が見直される傾向がありますが、社会にとって必要な投資は行われます。次代を担う子供たちのための学校、病院、鉄道ほか交通インフラの整備などで安全性や利便性の向上、建設費用の圧縮などを実現するため、当社の技術力、提案力を活かしています。

例えば、数年前から既存建物の耐震性能を強化する工事にいち早く取り組み、学校や庁舎などを中心に数々の建物の改修補強工事を手がけています。また今秋から原子力や火力の代替エネルギーとして自然由来の地中熱エネルギーの利用システムに取り組んでいるところです。

角藤は生産設備である工場や社屋、百貨店や郊外型商業施設、スポーツ・文化施設など様々な建築物の基礎杭・鉄骨・外壁ほか各種の専門工事を通じ、日本の産業を側面から支えています。

例えば、半導体や液晶パネルなど性能が日進月歩で進化する技術分野では、最新設備を備えた製造工場で一気に作って製品供給することで市場シェアを確保し利益を上げます。そのためには大規模な工場をできるだけ短期間で稼働させなければなりません。当社が鉄骨を施工した巨大工場では工期を大幅に短縮し、新しい設備の早期稼働に貢献しました。

今後も私たちが培ってきた力を結集し、東日本大震災の復興、社会資本の整備、さらに再び世界で活躍する力強い日本の復活に貢献していきたいと思います。

支える仕事、角藤の力。

代表取締役社長 大久保 公雄

